

肺癌原発巣および胸腔洗浄液中の miR-21 発現 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年8月1日～2023年3月31日

〔研究課題〕

肺癌原発巣および胸腔洗浄液中の miR-21 発現の検討

〔研究目的〕

肺癌組織や肺癌の手術時に得られる胸腔を洗浄した液体中に存在するマイクロ RNA-21(miR-21)の発現量が、癌の進行度や予後を予測するのに有用であるかを検討します。

〔研究意義〕

miR-21 は、癌の進行や転移に関係があると言われています。我々は、肺癌手術によって得られる肺癌原発巣の病理組織検体を用いて、miR-21 の発現量を評価し、肺癌における miR-21 の意義を評価します。また、一般的に肺癌手術時には、肺が入っている腔洞（胸腔）の中に既に癌細胞が広がっていないかを確認するために、胸腔を洗浄して胸腔洗浄液を回収し、この中の癌細胞の有無を評価します。この胸腔洗浄液には、癌細胞のみではなく、多種類の遺伝子産物やタンパク質が含まれていることが予想されます。我々は、細胞診検査後の胸腔洗浄液を用いて、この中に含まれる miR-21 の発現量を評価し、肺癌の進行状態や胸腔内の癌細胞の広がりとの関連性を調べる研究を行います。

〔対象・研究方法〕

2000年から2013年(肺癌組織)および2016年から2017年(胸腔洗浄液材料)に帝京大学医学部附属病院にて肺癌で手術を受けた方を対象とします。胸腔洗浄液は、肺癌の手術前後に胸腔内を生理食塩水で洗浄して得られる細胞診断材料です。肺癌原発巣の病理組織標本および胸腔洗浄液中のマイクロ RNA を用いて miR-21 をターゲットとした発現量の解析を行います。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部病理学講座

〔個人情報の取り扱い〕

研究結果は、個人が特定できない形式で学会等において発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後10年間保存されたのちに破棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部病理学講座 主任教授 宇於崎 宏

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL: 03-3964-1211(内線 48210)